

# 経済・金融 フラッシュ

## 4月マネー統計： 銀行貸出は5ヶ月連続の前年比マイナスに

経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志

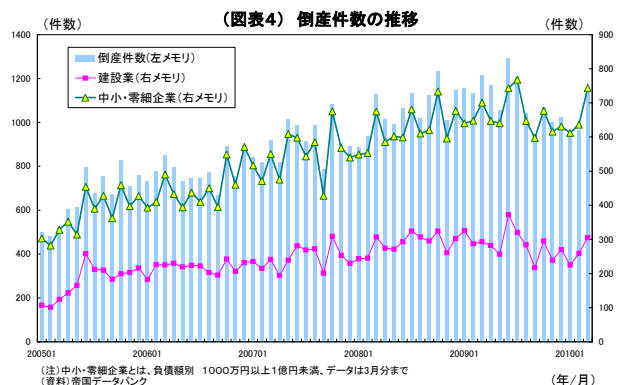
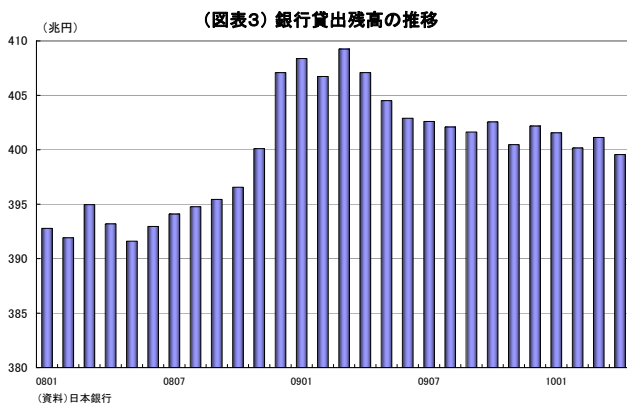
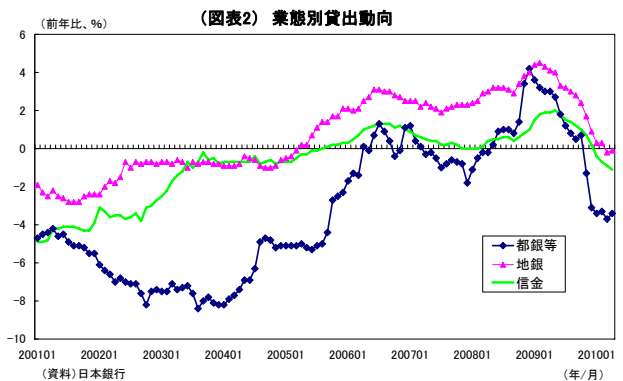
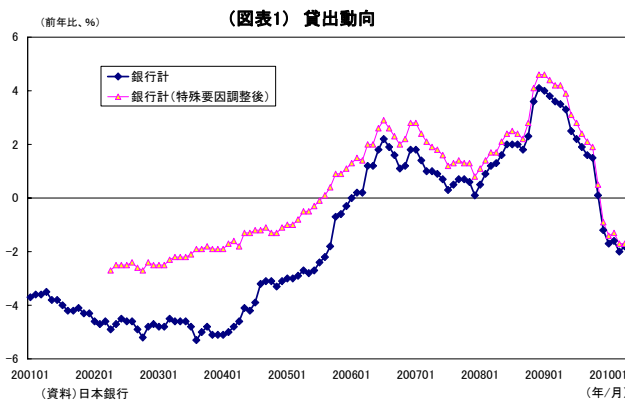
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

### 1. 貸出動向：日銀の「成長基盤強化のための資金供給」の行方に注目

日銀が発表した貸出・資金吸収動向等によると、4月の銀行総貸出(平残)の前年同月比伸び率は▲1.8%と前月(▲2.0%)からマイナス幅がやや縮小したが、5ヶ月連続のマイナスとなった。

比較対象である09年4月はリーマン・ショック後の金融市場の混乱に伴う貸出増加時期にあたり、反動が出ている面もあるが、貸出残高自体が減少傾向にあり、資金需要の低迷が効いているようだ。

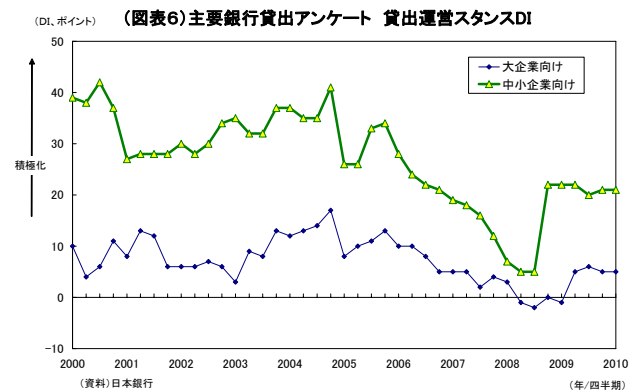
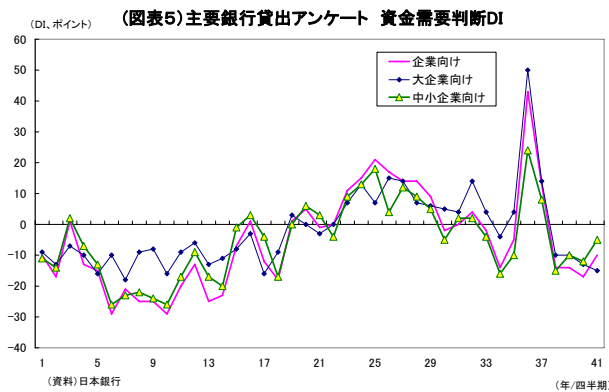
今後の注目点は、先月の日銀金融政策決定会合にて検討が表明された「成長基盤強化の観点から、民間金融機関による取り組みを資金供給面から支援する方法」だ。銀行貸出にとってはプラス要因になるだろうが、どの程度実効性のある仕組みになるかがポイントだ(図表1~4)。



## 2. 主要銀行貸出動向アンケート調査：資金需要の減少が継続

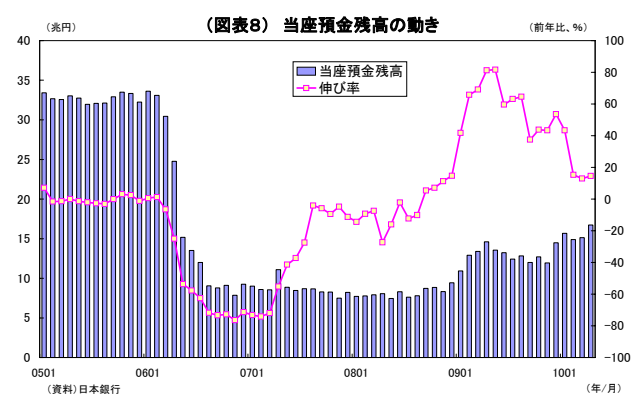
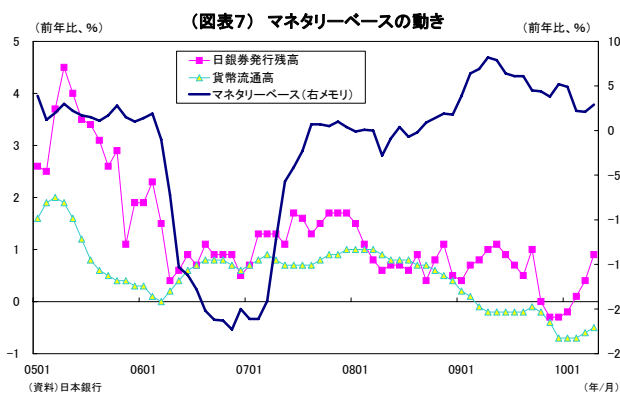
主要銀行貸出動向アンケート調査によれば、2010年1-3月期の銀行から見た企業の資金需要増減を示す資金需要判断D.I.は▲10と前期から7ポイント改善したが、依然方向性として、資金需要の減少が続いているという結果となった。大企業では▲15と前期比2ポイント悪化、中小企業では▲5と7ポイント改善している。減少理由としては、全体的に引き続き「設備投資の減少」の割合が高いが、大企業に限ってみると、「他の調達手段へのシフト」が最大要因となった(図表5)。

一方、銀行の貸出運営スタンスの変化を示す貸出運営スタンスD.I.は、大、中小企業ともにプラスを維持しており、引き続き貸出運営を積極化しているとの結果になった(図表6)。



## 3. マネタリーベース：緩和姿勢は当面維持

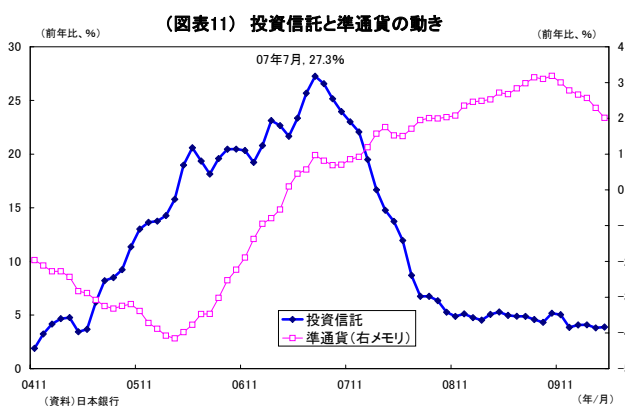
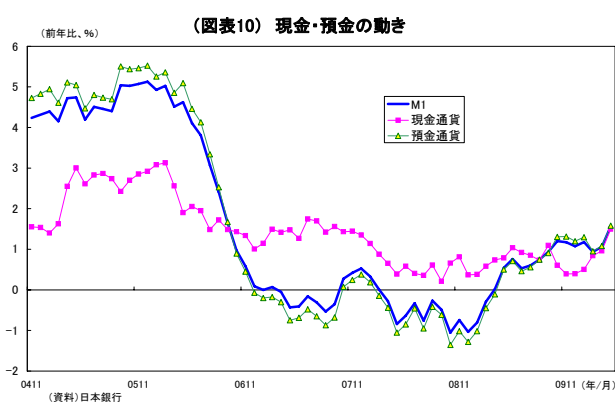
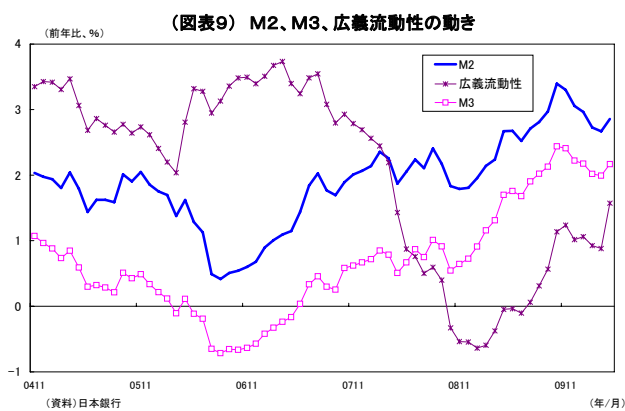
日銀による資金供給量を示す4月のマネタリーベースは、前年同月比2.9%増と20ヶ月連続の前年比プラスとなった。2月、3月と伸び率は鈍化していたが、今回再加速した。主因である日銀当座預金残高(平残)は16.7兆円と06年4月以降の高い水準となっている。日銀が新型オペの資金供給枠を3月に拡大した影響のほか、低金利に伴う市場機能低下から一部短期金利が上昇した対応として資金供給を増やしたという側面もあったようだ。日銀の金融政策に対する市場・政治からの期待は高く、緩和姿勢は今後も当面維持されるとみられることから、マネタリーベース残高は引き続き高水準で推移していきだろう(図表7,8)。



#### 4. マネーストック：通貨供給量の伸び率は再び上昇

通貨供給量の代表的指標である4月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年同月比2.9%増（前月改定値は2.7%増）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.2%増（前月は2.0%増）、M3に投信や外債などを含めた広義流動性も前年比1.6%増（前月改定値は0.9%増）と各前月から伸び率が上昇した。（図表9）。

今回の特徴は現金通貨と預金通貨（当座・普通預金など）を合わせたM1の伸び率が1.6%と06年9月以来の高い伸びになったことだ。景気は持ち直し、企業収益も改善傾向にあるものの、ギリシャ問題など先行き不透明感が広がっている。資金需要が低迷している企業、リスク投資を本格化しにくい家計において、行き場を見失った資金が一時的に現金・流動性預金として蓄積された可能性がある（図表10, 11）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。